

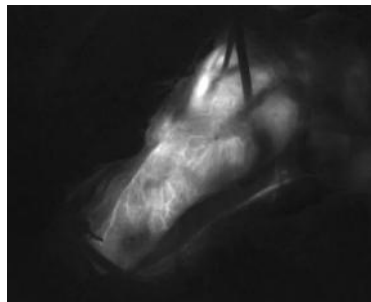
頸動脈狭窄症について

頸動脈狭窄症の手術的な加療により脳梗塞の発症予防を行っています。一般的には、頸動脈狭窄が 50%未満では内科的な加療(抗血小板剤の内服)に重点を置いて治療を行っています。症状がすでにある方の場合(症候性)は狭窄が 60%程度、症状がまだない方の場合(無症候性)は 80%程度以上では外科的な加療を薦めています。若年者で頸動脈プラークが柔らかく不安定な状況の患者さんには、頸動脈内膜剥離術(CEA)を行っています。高齢者や心疾患の既往のある全身麻酔に危険性がある患者さんの場合には、脳血管内手術を選択し局所麻酔下での頸動脈ステント術(carotid artery stenting, CAS)を行っています。CAS について、脳血管内治療専門医である藤井医師(脳神経外科)と上村医師(放射線科)がチームで治療に当たっています。

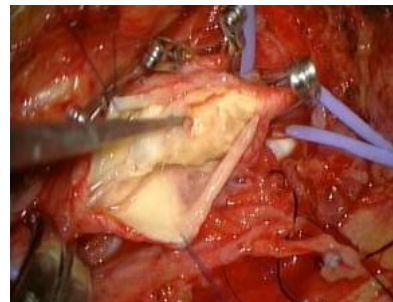
頸動脈内膜剥離術中写真



剥離術前

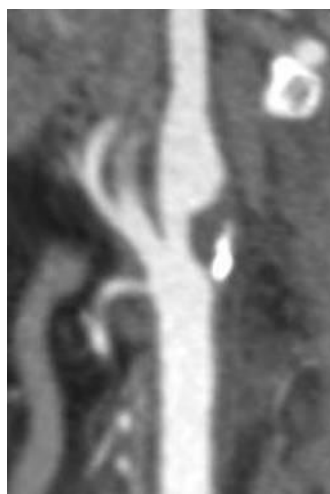


蛍光血管造影



剥離プラーク

頸動脈内膜剥離術後



術前血管造影



術後血管造影

頸動脈ステント留置術



ステント留置前



ステント留置後